

平成二十五年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面にも続けて書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問題

非公開

非公開

非公開

(松浦雄介「きたないはきれい―近代の廃墟の遺産化／審美化をめぐって」『世界思想』二〇一二年春号(三九号)、世界思想社、九、十二ページ、抜粋・一部改変)

問一 右の文は何を論じたものなのか、その論旨を三〇〇字以内でまとめなさい。

問二 右の文の傍線部分について、著者が述べようとしている意味を、あなたの言葉で具体例を用いながら九〇〇字以内で解説しなさい。

平成二十五年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科・琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄、および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は近代化の痕跡が現在において審美的な扱いを受けつつあることとの問題について述べたものである。本出題の意図は固定観念に縛られず、広く近代と現代との関係について考えようとする文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。加えて「近代」とは「遠い過去」であると同時に「生々しい現在」でもあるゆえに、その審美化は可能であり同時に不可能であるという筆者の主張への解説と意見を論述させることで、「近代」というものの捉え方について論じた文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。